



営農情報

INFORMATION



★今月号は私が担当しました。

営農振興課
営農経済渉外係長

田中 裕子

資材高騰に対する コスト削減と 環境配慮の取り組み

世界的な情勢不安の影響により、燃料や肥料・農薬だけでなく、ほぼ全ての生産資材価格が高騰し、農業経営への影響が広がっています。生産資材費の増加は、収益を圧迫し経営の安定にも影響を及ぼしています。こうした中、無駄のない肥料の利用や防除の工夫など、コスト削減と環境に配慮した取り組みの重要性が高まっています。

○土壌診断による適正施肥

ほ場ごとの土壌状態を把握することで、適正な施肥を行うことができます。

特に、何年も土壌診断を行わず毎年同じ量の肥料を施用している施設栽培では、肥料の過剰傾向が見られます。このようなほ場では、土壌診断の結果をもとに施肥量を見直すことで、肥料費の削減だけでなく、化成肥料の削減による環境負荷の低減や、土壌の肥料バランスの改善による植物の生育改善・収量増にもつながります。

露地栽培では、石灰資材の過剰傾向が見られます。高pHにより、土壌中に肥料成分があつたとしても効率的に吸収できず、化成肥料の過剰施用につながります。毎年、同じ量の肥料を施用するのではなく、土壌診断をもとに、必要な量を施用しましょう。

JAふかやでは、組合員のみなさまを対象とした「土壌診断」を実施しています。毎月10日までに、各営農経済センターにお申し込みいただくと、月末に結果をお届けします。【料金330円（税込）1回5点まで】

○堆肥を使用した低コスト肥料

JAグループでは、堆肥などの国内資源を有効活用することで、国際情勢に左右されにくい肥料の

安定供給を目指しています。

・彩の国エコバード255（N-P-K 12-5-5）

埼玉県産の鶏ふん堆肥を45%使用した、地域資源循環型肥料です（有機態窒素1・6%）。

畑に蓄積しがちなリン酸・カリを抑えた肥料で、土壌診断の結果、リン酸・カリが過剰のほ場におすすめてです。



・エコレット808（N-P-K 8-10-8）

豚ふん堆肥を約50%使用した肥料です（有機態窒素1・5%）。バランスの良い成分で、様々な作物に使用できます。

○農薬の使用量の削減へ向けて

農作物を栽培するうえで、農薬は必要不可欠な資材です。みなさんは現在、適切に農薬を使用し、農作物を栽培されていると思いますが、今までの使用方法を少しだ

け見直すことにより、農薬の使用量を削減できます。

○適切なタイミングでの使用

病害虫を防除するためには、発生してからでは沢山の農薬が必要となります。発生前の予防的散布や、ほ場をよく観察し早期発見により農薬の使用量を減らしましょう。

○生物的防除資材の使用

天敵農薬やフェロモン剤の使用がおすすめです。化学農薬と異なり、速効性はありませんが、上手に使用することにより長期的に発生を抑制することができます。



ヨトウコン-S
シロイモジヨトウ防除
(交尾阻害)
株桑風館ほ場

今回紹介した内容は、新しい技術ではありません。ちょっとした工夫や観察など、基本的なことです。持続可能な農業のためにも、環境に配慮してコスト削減に取り組みしましょう。